

「ISAP 2010名古屋会議」(ISAP:国際アスファルト舗装会議)について

名古屋国際会議場(白鳥会場)において平成22年8月1日から8月6日の間、国際アスファルト舗装会議(ISAP)が開催されました。

ISAPの過去10回は組織本部のある米国で6回、その他英国、オランダ、デンマーク、カナダの欧米で開催されてきました。本会は欧米以外で初めて、日本の名古屋での開催です。

各国の参加者が白鳥会場にて論文発表等を行う中、8月1日から3日の間「2010建設テクノフェア・ISAP道のテクノロジー展」が開催されました。出展者は企業、学校、自治体の多岐にわたり184区画の



出展があった模様です。矢作建設グループもFILL WALL、EGP、クールベープを出展いたしました。(写真1)



(写真1)

最終日の8月6日に開催された「テクニカルツアー」は、国際会議に参加された外国の方々から日本の道路技術を見学していただくもので、建設中の道路に交えヤハギ道路アスコンリサイクルセンターを見学していただきました。ツアーは午前と午後それぞれ30名ほどが訪れ、アスコンリサイクルセンターの見学に併せ

てクールベープの実験ヤードを案内いたしました。アスコンリサイクルセンターではアスファルトガラをリサイクルする施設や、豊田市で発生するごみ焼却灰のスラグを砂の一部に使っている様子等を説明し、見学者の興味を引きました。(写真2)



(写真2)

クールベープ実験ヤードの案内では、実際の路面を触れさせていただき、炎天下の普通の舗装の熱さに驚かれ、クール

ベープの路面の温度差に感心していました。見学者は欧米、アジアが半々に見受けられ、教授、研究者が参加されている様子で、日本独自の舗装技術である保水性舗装について、通訳が対応しきれないほど多く質問があり、見学終了時間をあつという間に迎え、名残惜しうに現場を離れました。(写真3)



(写真3)

□建通新聞 (2010/8/10 8面)

ISAP名古屋会議 テクニカルツアー

クルセンターではプラン
トや同社の保水性アスフ
ルト舗装クルペーブ
の施工例などを視察した
写真。
テクニカルツアーは、
同会議に参加者した海外
の舗装技術者に名古屋
周辺で実施されている環



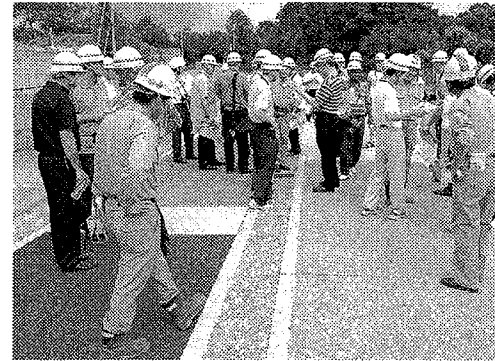
ISAP名 境に配慮した舗装技術を
古屋会議の最 紹介し道路の建設状況を
終日となる6 視察してもらうほか名古屋
日、テクニカ 屋の産業技術について理
ルツアーが行 解を深めてもらうことを
われ、このう
ち豊田市のヤ
ハギ道路アス
コン・リサイ

目的に開催した。
ヤハギ道路のアス
コンリサイクルセン
ターは、アスファル
トプラントとリサイ
クルプラントからなり、
アスファルト混合物の循
環を可能にしている。ク
ールペーブは、ポーラス
アスファルト混合物の空
げきに保水材(微
粒珪砂)を充填(じ
ゆうてん)し路盤
にも保水材を混入
した保水性アスフ
ルト舗装。保水
性と吸水性に優れ
た微粒珪砂が舗
装内部の水分を蒸
発させることで
気化熱により路面
温度の上昇を抑制
する特長を持つ。

保水性AS舗装クル ペーブの施工例など視察

ヤハギ道路アスコン・リサイクルCで

□建設通信新聞 (2010/8/10 14面)



「クルペーブ」を体感

第11回国際アスファルト舗装会
議(ISAP2010名古屋会議)
の参加者を対象に、日本の道路技
術を見学してもらう「テクニカル
ツアー」が6日行われ、地元企業
のヤハギ道路(愛知県豊田市)に
海外から多数の技術者らが見学に
訪れた。
同ツアーは、建設中の名古屋環
状2号線や新東名高速道路の現場
などを回り、日本のアスファルト
舗装の最新技術や環境対策を知っ
てもらうことが目的。コースの一
環となったヤハギ道路には、午前

ヤハギ道路を見学

ISAP2010テクニカルツアー

と午後それぞれ約30人が訪れ、同
社のアスコンリサイクルセンター
や、保水性アスファルト舗装「ク
ールペーブ」の実験ヤードを見て
まわった。
見学にはアジアや欧米からの参
加者が多く、施設をカメラで撮影
するなどしながら、同社社員に
「リサイクルセンターから発生す
る排熱は有効利用しているのか」
「(クルペーブは)ダークカラ
ーとナチュラルカラーではコスト
が違ふのか」など熱心に質問を投
げかけていた。